

アシジ「HIROSHIMA 1945」プロジェクト

アーティスト ヤデガー・アシジが、「広島原爆投下の日」を、高さ 32m、周囲 110 m の世界最大 360 度のパノラマ作品に手掛ける。

アシジは 1955 年ウィーン生まれ、現在はドイツ在住の美術家・建築家。

2003 年よりパノラマ作品を描き成功を収めている。作品はガスタンクの内部や専用に作られた建物内に設置されている。パノラマ作品とガスタンク(独語ガゾメーター)を掛け合わせて、パノメーターと呼ばれている。パノメーターのテーマは、歴史や現代史、自然など幅広い。(アシジのプロフィール詳細は P4 参照)



(写真は、ドイツドレスデンにある彼の作品の一つ Dresden1945 で、下のリンクより引用)

<http://www.afpbb.com/articles/-/3038104?pid=15162305> Dresden1945 は、第二次世界大戦で被害を受けたドイツの街ドレスデンを描いている)

(参考: ドレスデン 1945 ビデオ) <https://www.youtube.com/watch?v=MoQiq3ZSyg8&t=225s>

(ドイツのテレビ番組: Making of `Dresden 1945`) <http://www.ardmediathek.de/tv/Der-Osten-Entdecke-wo-du-lebst/Der-Tag-nach-dem-Feuersturm/MDR-Fernsehen/Video?bcastId=9397858&documentId=40617402>

2012 年以降、アシジは、芸術作業に集中するため、自ら共同出資者となってアシジ・パノラマ・インターナショナル有限会社 (Asisi Panorama International GmbH, 以下 API) を立ち上げ、パノメーターを制作している。API が、アシジ作品のライセンス管理と作品販売、そして会社経営を担当し、美術プロジェクトの実現を担う。

ドイツ各地とフランスで成功を遂げた API。日本でのプロジェクトにも十分な可能性を感じている。

「HIROSHIMA 1945」

1945 年 8 月 6 日の広島「原子爆弾投下」をテーマとして取り扱うが、単に原爆被害にあった人々や国を強調するのではなく、普遍的な反戦のメッセージを伝えることを視野に入れている。原爆への関心は今日も高く、広島でのパノメーターは、日本だけでなく世界から注目されるだろう。

なお、現段階では「メインテーマ」はまだアシジ側から提示されていない。この「テーマ」を決めていくことも作業工程の一つであり、本人が現地へ足を運び、この題材について深く関わって考えながら決めていくことになる。プロジェクトの依頼側(設置受け入れ側)が、事前に企画構想を確認することはあるが、最終的には、この「テーマ」を作品へ変換する作業は、アシジの芸術的な自由表現であり、そのアーティストとしての表現が尊重される。

展示作品では音楽も重要な一部を担い、特別に作曲される。

3つの重要な前提条件

1. 設置場所が一等地であること

(API の一番の理想は広島平和祈念公園内である。もしくはどこか近くで原爆と関連のある場所)

また、これに加え、現地での(政治的)意欲が決定的な役割を担う。実現には、公的なトップクラスの人物がプロジェクトに関与できることが理想的である。

なお、このパノメーターを、既存施設からライバル視されるようなものにするのではなく、教育性のある既存施設を補足するようなものにする事が望しい。

2. 資金

新規プロジェクト/投資の資金調達は、API ではなく現地のパートナーが担う。

API の予想では、このプロジェクトを実現するために**必要な資金は 1100 万ユーロ**。

日本円でおおよそ 14 億 3000 万円。

内訳例:

- ・ パノメーターの建設...400 万ユーロ(約 5 億 2000 万円)
通常、360 度のパノメーターは直径、高さ、共に 30m。
隣接する建物は訪問客用マネジメント、受付、
チケット売り場、クローク等に使うため、
十分な広さを必要とする。
最低 50m×50m(2500 m²)の広さの土地が望ましい。



※ドイツには、例外的にパノメーターの高さが 20m の施設もある。

- ・ 芸術作品の創作...300 万ユーロ(約 3 億 9000 万円)
- ・ 建物内設備...100 万ユーロ(約 1 億 3000 万円)
ソフトウェア、照明、サウンドシステム
- ・ ライセンス料金...100 万ユーロ(約 1 億 3000 万円)
ライセンスは、展示のモチーフを変更する時の為に数作品分に渡る。
*API は現地の人々にパノメーターを親しんでもらえて、観光客を繰り返し惹き付けられるよう、展示のモチーフを変更することも提案している。(例:自然)

※この他、下に挙げた費用など、ヨーロッパでの作成よりもコストがかかる可能性も考えられる。

- ・ アシジとアシスタントメンバーの来日費用
- ・ ヨーロッパからパノメーターを搬入する可能性
- ・ ヨーロッパからの搬送、建設、設置
- ・ API の従業員が作業する場合、その旅費、滞在費

- ・ 通訳費用

なお、ヨーロッパでの年間来場者数 50 万人と同等の来場者を集められれば、3 年で経済効果が得られる予想。(例: 50 万人 × 入場料 1000 円 = 5 億円 × 3 年 = 15 億円)

収入額から経費等を除いた利益は、被爆者などのために寄付される。

ちなみに、このプロジェクトに際しては、行政および私営企業、両方からの協力が得られると望ましい。(例えば、地方の行政と地元の平和記念館/公園からの協力は得られるか?)

3. 企画保持者/責任者

運営管理をどこが担うか。(運営を委託できる会社、団体等はあるか?)

スケジュール

2020 年の 8 月 6 日にオープンできるのが理想的。

この日は被爆 75 周年にあたり、この年は東京オリンピックが開催される年でもある。

より多くの注目を集められるだろう。なお、企画完成までの目安は、最速で 2 年が見込まれる。

2020 年の夏に完成させるためには、API と 2018 年 3 月には契約を結ぶ必要がある。

広島の意味決定者と派遣代表に、早い段階でベルリンとドレスデンのパノメーターを訪問してもらいたい。戦争をテーマにした DRESDEN 1945 は 2018 年 4 月 22 日まで見学が可能。その後はバロック時代のドレスデン(DRESDEN IM BAROCK)が公開される。

<https://www.panometer.de/dresden/panometer-dresden/>

アシジ本人は、日本を訪れたことがないため、企画の初期段階に、日本を訪問し、広島に 2~3 週間、更に東京と京都も訪れ、日本全体を知る必要がある。

過去の作品例・企画背景

- ・ PERGAMON-Panometer 2012(ペルガモン・パノメーター2012)

アシジの突破口となった作品で、2012 年、ベルリンの博物館島にあるペルガモン博物館で公開された。

- ・開催期間: 15 か月
- ・訪問客: 150 万人
- ・当時の作業期間: 完成まで 5 年
- ・鉄鋼構造の建物

当時、ペルガモン博物館の改修が行われていたことが功を奏し、その場所にパノメーターを設置することができた。

- ・ プフォルツハイム、南ドイツ

既存のガスタンクを使用。ホテルを経営するガスタンクの所有者が、共同パートナーとプロジェクトを個人的に立ち上げた。観光客を呼び寄せ、地元の経済発展につながった。

- ・ ノルマンディー地方、ルーアン、フランス

ノルマンディー地方とのつながりがある政治家ローレン・ファビウス氏が、アシジのパノメーターが地域の発展を促進させると見込み、ルーアン市とその周辺地域に呼びかけた。

ヤデガー・アシジについて



<https://www.asisi.de/homepage/> (HP)

1955年オーストリア・ウィーン生まれ。

ペルシア人の親を持ち、5人の兄弟と共に幼少期と学生時代をドイツのハレとライプツィヒで過ごす。

1973年からドレスデン工科大学で建築を学び、1978年に工学士として卒業。

同年、ベルリン芸術大学にて美術を専攻し、1984年まで在籍。

1987年から7年間、同大学で透視図法を教え、1991年には建築の客員教授を務める。

1989年、同僚と共に設計した磁気浮上式鉄道の駅がミス・ファン・デルローエ賞を受賞。

1996年から2008年までベルリン工科専門大学で教授として自由建築描画を教える。

2009年、パノラマ作品に集中するため、教壇を後にする。

ベルリン国際建築展（1984年）、ミラノ・トリエンナーレ（1986年）、セビリア万国博覧会（1992年）などを経て、透視図法を用いたアナモフィック（いかに大きく見せるか）なプロジェクトが誕生し、舞台背景や展示会にも参加。

数々の都市計画を題材としたコンテストでノミネートされた。90年代初めからパノラマ作品に取り組み、2003年以降、本格的に世界最大のパノラマ作品を作成している。

ヤデガー・アシジの言葉：

「パノラマでは見る者が、自らの監督になる。」「描くということは私にとって、読んだり書いたりするのと同じような思考ツールのひとつなのだ。」



YON'S Production, Berlin

Köthener Str. 38, 10963 Berlin

Tel. +49-30-2611137 / Fax. +49-30-2611130

Mail : mail@yons.de / HP : www.yons.de